

【議案第 65 号】

令和 2 年度浜田市一般会計補正予算（第 6 号）

令和 2 年度浜田市一般会計補正予算（第 6 号）の賛成討論を行います。

補正額は、25 億 6,138 万 7 千円です。新型コロナウイルス感染症緊急経済対策等に係る国の補正予算関連事業 2 事業は、17 億 9,137 万 5 千円。内訳は、高速情報通信基盤整備事業 17 億 8,850 万 3 千円と特別保育事業 287 万 2 千円です。

新型コロナウイルス感染症対策として追加で取り組む市単独事業 9 事業は 1 億 2,576 万 8 千円です。一つ、新型コロナウイルス感染症対策地域公共交通事業者支援事業 21 万 3 千円。二つ目、新型コロナウイルス感染症対策事業 454 万円。三つ目、総合福祉センター管理事業 120 万 9 千円。四つ目、保育所等従事者応援協力金給付事業 3,530 万円。五つ目、新型コロナウイルス感染症対策事業 732 万円。六つ目、遠隔医療体制整備事業 353 万 6 千円。七つ目、浜田プレミアム付き飲食宿泊応援チケット発行事業 1,910 万円。八つ目、石見神楽特別番組制作事業 1,660 万円。九つ目、児童生徒 1 人 1 台端末整備事業 3,795 万円。プレミアム付きはまだ飲食宿泊応援チケットの追加発行や保育所等従事者応援協力金、神楽社中への支援をはじめ、さらに今後国の支援として法人 600 万円、個人 300 万円の地代家賃給付金も今後用意されていることを考えれば、どの事業も、的確なものであると、評価するところです。

この結果、浜田市独自の市民救済策は、30 億円を超える規模となりますが、すでに第 1 弾 2 億 6 千万円、第 2 弾 8 億 6 千万円の合計 11 億 2 千万円の地方創生臨時交付金がすでに国から手当てされています。今回について言えば、浜田市の負担分は、ふるさと基金 1 億円、地方債 2 億円であり、実質的な浜田市負担 1 億 6 千万円でしかありません。ふるさと基金も、全国の皆さんからいただいたものであることを考えれば、結果的に国と県の補助金とふるさと基金を使うことで、浜田市はほとんど財源の影響を被っていないと、言えるのではないのでしょうか？

今回の第 3 弾で、正直がっかりさせられたのは、生活苦に直面する子育て世帯への支援が計画されていなかった点です。

全国の先進自治体の中には、3 歳児からの国の保育料無償化政策によってもたらされた財源負担の軽減分を使って、子育て支援を強化した自治体もありますし、毎年一つずつ子育て支援のメニューを強化している自治体もあります。例えば、一つ、中学生の学校給食費無料。二つ目、第 2 子以降の保育料ゼロ歳児から 2 歳児まで無料と副食費の無料化。三つ目、医療費 15 歳まで無料。四つ目、養育費の行政代替支払い。五つ目、プールや科学館など市の施設の親子の入場料無料。特徴的な子育て支援を拾い出しても、豊富な内容ですし、当然のことながら相談体制も充実しています。このようなメニ

## 令和 2 年 9 月定例会議 澁谷 幹雄議員 賛成討論

ューが用意されている先進自治体と、浜田市とでは、子育て支援に対して相当な開きが生まれていると思われませんか？結果的に、この自治体は都市間競争の中で勝者の位置を獲得し、毎年人口は増加しています。現在、30 万人に迫る勢いです。

今や、子育て支援を強化している自治体は、第 1 子 10 万円、第 2 子 20 万円、第 3 子 50 万円、第 4 子以降 100 万円の出産祝金。さらに出産準備金 10 万円、里帰り出産交通費助成 5 万円などの圧倒的な現物支給を実践する隠岐の島の海士町だけではないのです。

市長が本当に、人口減少が浜田市が一番の課題であると思っておられるのなら、次回にこそは新型コロナウイルス対策第 4 弾として、明確な子育て世帯への支援を期待するものです。

以上、賛成討論といたします。